



**TAIYO NIPPON SANSO**  
The Gas Professionals

# 2017年3月期 第2四半期決算説明会

**大陽日酸株式会社**  
**2016年11月15日**

# 目次

## 1. 2017年3月期 第2四半期業績

- 1) 第2四半期業績概要
- 2) セグメント別業績

## 2. 2017年3月期 通期業績予想

- 1) 通期業績予想
- 2) セグメント別業績予想

## 3. 中期経営計画「Ortus Stage 1」

- 1) 進捗状況
- 2) 戦略方針
- 3) 構造改革
- 4) イノベーション
- 5) グローバリゼーション・M&A



# 1 - 1. 第2四半期業績概要

単位：億円	16/3月期 2Q実績(IFRS) 利益率	17/3月期 2Q実績(IFRS) 利益率	前年同期比	17/3月期 2Q公表値(IFRS) 利益率
売上収益	2,843	2,687	-156 -5.5%	2,930
コア営業利益	225 7.9%	257 9.6%	+32 +14.2%	242 8.3%
非経常損益	18	1	-17	0
営業利益	243 8.6%	259 9.7%	+16 +6.5%	242 8.3%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	150 5.3%	164 6.1%	+14 +9.6%	147 5.0%

- 為替換算の影響（USD→円）：前期2Qレート 121.73円 当期2Qレート 105.39円  
→影響額 売上収益158億円、コア営業利益12億円



## 1-2. セグメント別業績

単位：億円		16/3月期 2Q実績 (IFRS)	17/3月期 2Q実績 (IFRS)	増減率	要因
国内ガス	売上収益	1,556	1,524	-2.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 原油価格下落の影響により、LPガスの売上高が減少</li> <li>▶ エレクトロニクス向け機器・工事の販売増加</li> </ul>
	セグメント利益	124	141	+13.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 原油価格下落によりコスト低減</li> <li>▶ エレクトロニクス向け機器・工事の増収に伴う増益</li> </ul>
米国ガス	売上収益	771	651	-15.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ バルク（特に炭酸ガス）は堅調も、ハードグッズが減少</li> <li>▶ 9月よりAir Liquideから買収した事業の売上を計上</li> </ul>
	セグメント利益	46	47	+1.9%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 食品、飲料向け炭酸ガス好調による増益</li> <li>▶ Air Liquideから買収した事業の計上による寄与</li> </ul>
アジア・ オセアニアガス	売上収益	377	377	-0.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ フィリピンは堅調もシンガポールは軟調</li> <li>▶ M&amp;A（タイ、オーストラリア）による寄与 +49億円</li> <li>▶ 中国・韓国・台湾でのエレクトロニクスガスは前期並み</li> </ul>
	セグメント利益	22	25	+16.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ フィリピンは増収に伴い増益もシンガポールは減益</li> <li>▶ M&amp;A（タイ、オーストラリア）による寄与 +9億円</li> </ul>
サーモス他	売上収益	137	134	-2.3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ インバウンド需要による伸びは一段落</li> </ul>
	セグメント利益	40	50	+24.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 円高による輸入価格低減効果</li> <li>▶ 海外関係会社好調による持分法投資利益の増加</li> </ul>

※ セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出した「コア営業利益」で表示しております。

## 2-1. 2017年3月期 通期業績予想

単位：億円	16/3月期 通期実績(IFRS) 利益率	17/3月期 通期予想(IFRS) (11/2発表) 利益率	前年同期比	17/3月期 通期予想(IFRS) (5/11発表) 利益率
売上収益	5,944	5,700	-244 -4.1%	6,100
コア営業利益	474 8.0%	520 9.1%	+46 +9.6%	520 8.5%
非経常損益	14	0	-14	0
営業利益	489 8.2%	520 9.1%	+31 +6.3%	520 8.5%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	290 4.9%	300 5.3%	+10 +3.3%	300 4.9%

- 業績予想を修正（売上高 ▲400億円、営業利益 ±0億円）
- 通期想定為替レート（USD→円）：105円



**TAIYO NIPPON SANSO**  
The Gas Professionals

## 2-2. セグメント別業績予想

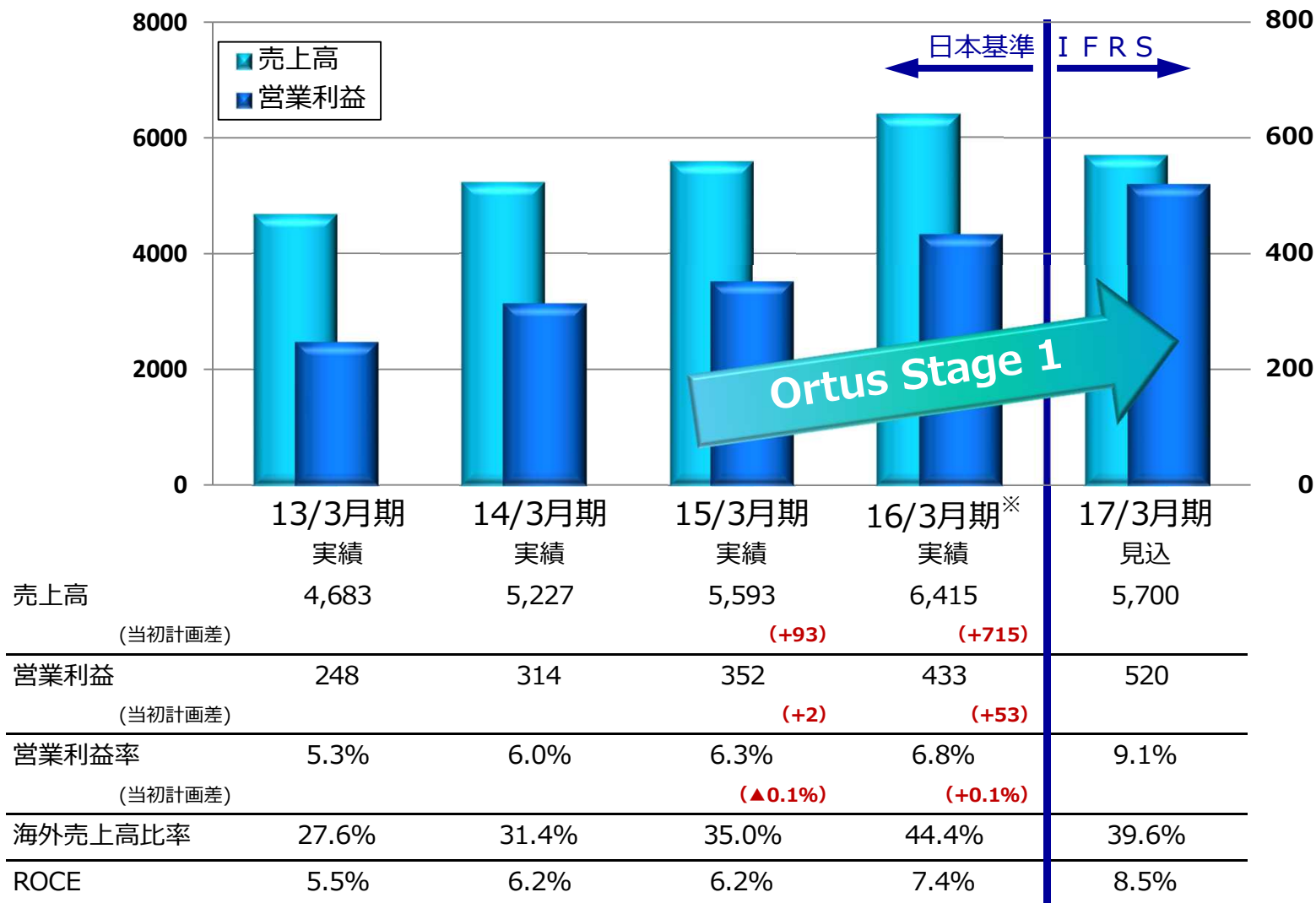
単位：億円		16/3月期 通期実績 (IFRS)	17/3月期 通期予想 (IFRS) (11/2発表)	増減率	今後の取り組み	17/3月期 通期予想 (IFRS) (5/11発表)
国内ガス	売上収益	3,279	3,200	-2.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ サプライチェーンの強化を推進</li> <li>➢ 水-180 3号プラント稼働開始</li> <li>➢ 新日鐵住金、JFEスチール向け新規オンサイト（建設中）</li> </ul>	3,340
	セグメント利益	278	282	+1.3%		276
米国ガス	売上収益	1,495	1,450	-3.0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ Air Liquide社から一部事業及び資産を買収</li> <li>➢ 新規オンサイト案件を獲得</li> <li>➢ CCPI社にて炭酸ガス製造プラント新設を決定</li> </ul>	1,600
	セグメント利益	92	108	+16.9%		113
アジア・ オセアニアガス	売上収益	893	770	-13.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ フィリピンで新規パイピング供給開始</li> <li>➢ ベトナム北部2号プラント稼働開始</li> <li>➢ シンガポールのLNOXで電力購入契約を改定</li> <li>➢ LNOXにて炭酸ガスプラント稼働開始</li> </ul>	880
	セグメント利益	30	58	+92.7%		77
サーモス他	売上収益	275	280	+1.7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 8月に新商品を投入</li> <li>➢ フィリピン新工場稼働開始</li> </ul>	280
	セグメント利益	90	90	-0.0%		70

※ セグメント利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いて算出した「コア営業利益」で表示しております。

# 3-1. Ortus Stage 1 進捗状況

左軸：売上高  
(単位：億円)

右軸：営業利益  
(単位：億円)



※ 2016年3月期は一部子会社での決算期変更影響（売上高+513億円、営業利益+29億円）を含む

## 3-2. Ortus Stage 1 戦略方針

### 1. 構造改革

- ・ 60-70億円の固定費を削減

### 2. イノベーション

- ・ 次世代の核となる新規事業を創出
- ・ グローバル市場を見据えた新規商材の開発を加速

### 3. グローバリゼーション

- ・ 米国、新興国等で経営資源を戦略的に投入し、長期的(2022年度)には、海外売上高比率を50%以上に引き上げ

### 4. M&A

- ・ 未進出国を含めたグローバル市場の開拓・参入を実施し、事業規模拡大の加速

主要ターゲット

海外市場

成長市場

持続可能な企業へ



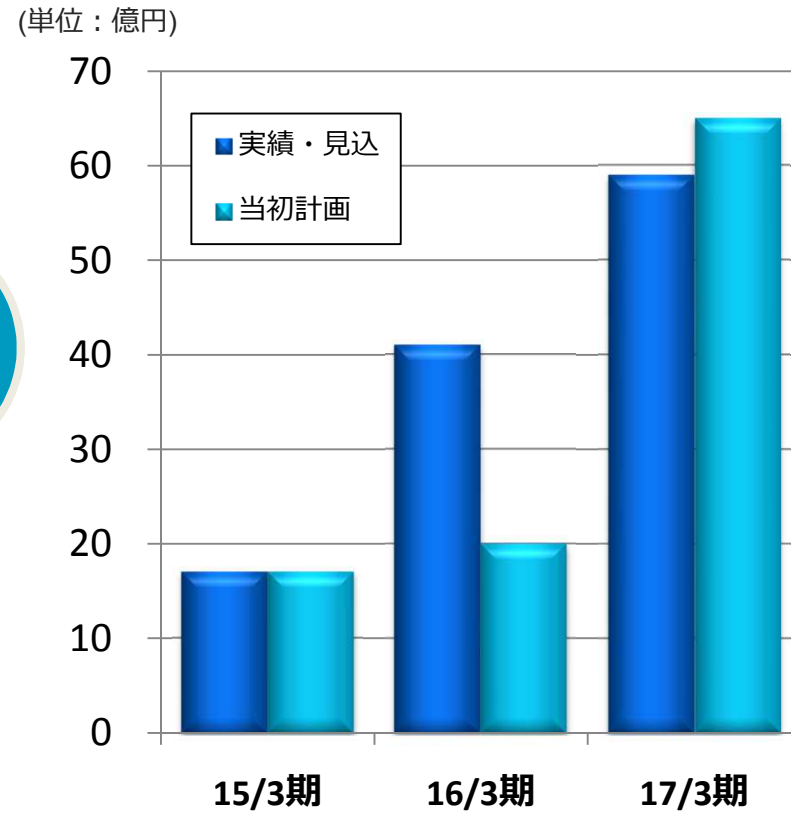
TAIYO NIPPON SANSO  
The Gas Professionals



### 3-3. 構造改革進捗状況



構造改革およびコストダウンによる  
収益改善額(14/3期比累計)



国内事業を中心とする構造改革およびコストダウンは、当初目標（60～70億円）に対し、ほぼ達成となる約60億円を見込む

## 3-4. 新規戦略製商品の投入

イノベーション

- エネルギー、ヘルスケアなどの分野で次世代の核となる新規製商品を開発

### イノベーション

- ・超電導冷却システム
- ・水素製造技術 等

#### 超電導冷却システム

- ネオンガスを冷媒に使用し、超電導電力機器を $-200^{\circ}\text{C}$ 以下で冷却可能な大容量ターボ・ブレイトン冷凍機「NeoKelvin®-Turbo 10kW」を販売開始（2016年7月29日発表）



大容量ターボ・ブレイトン冷凍機  
「NeoKelvin®-Turbo 10kW」

### 収益事業化

- ・水素ステーション
- ・凍結保存システム
- ・水 $^{-18}\text{O}$  等

#### 水素ステーション

- パッケージ型水素ステーション「Hydro Shuttle®」を中心に水素ステーションを拡販し、累計15台を販売



Hydro Shuttle®

- アンモニア水素ステーション実現に向けた共同研究により、アンモニアから燃料電池自動車用高純度水素を製造する技術の開発に成功（2016年7月19日発表）

### 次世代コア事業へ

#### 凍結保存システム

- 生体試料の温度履歴情報統合管理システム「CryoLibrary iMaster®」販売開始（2016年9月14日発表）  
→再生医療の実用化に向けた取り組み



クライオライブラリー®  
アドバンス



CryoLibrary iMaster®の  
システムメイン画面



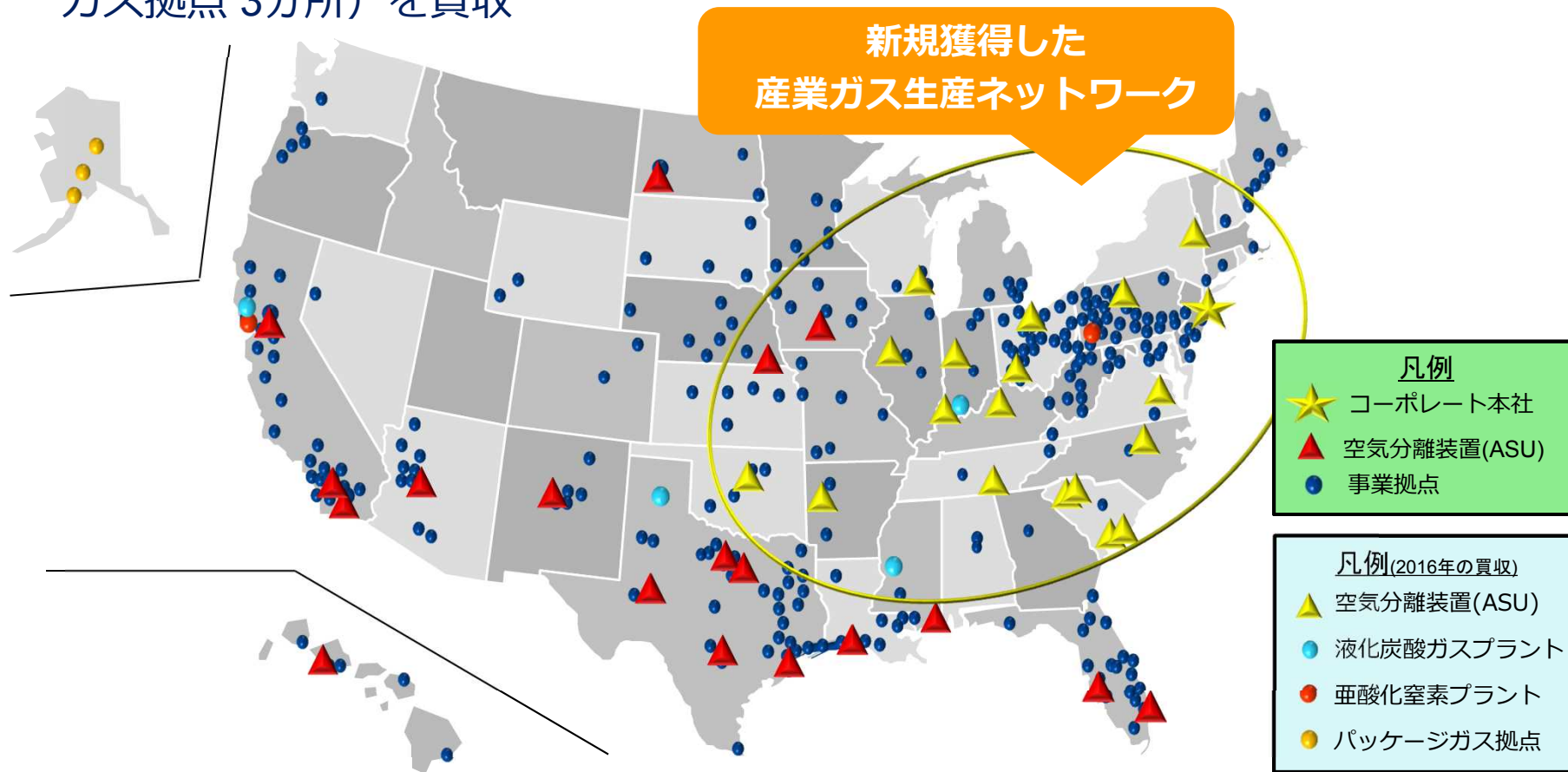
TAIYO NIPPON SANSO  
The Gas Professionals



### 3 – 5. 米国① : Air Liquideから一部事業・資産を買収

M&A

- 2016年9月、Air Liquideより米国における一部事業及び資産（空気分離装置 18基、液化炭酸ガスプラント 4基、亜酸化窒素プラント 2基、アラスカ州でのパッケージガス拠点 3カ所）を買収



液化ガス（酸素、窒素、アルゴン）生産ネットワークを東部・中西部に拡大し、  
米国におけるナショナルサプライヤーの地位を構築

### 3-5. 米国②：オンサイト事業の拡大

グローバルイノベーション

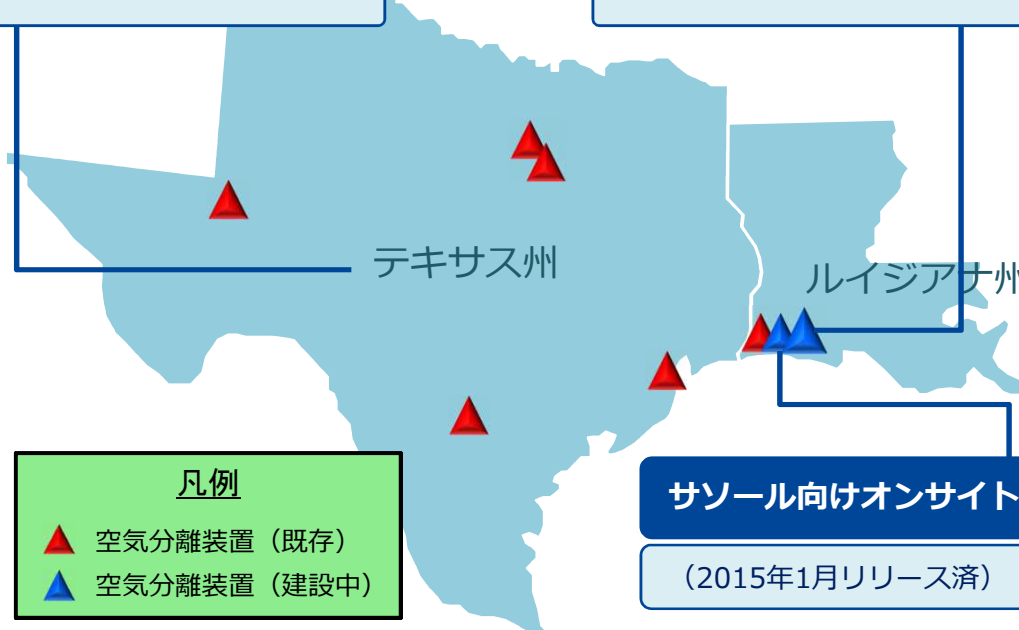
- テキサス州、ルイジアナ州にて大型オンサイト案件を獲得

#### テキサス州オンサイト

設置場所：テキサス州中央テキサス地区  
パイピング供給先：大手酸素ガスユーザー  
新ASU稼働開始時期：2017年

#### ルイジアナ州オンサイト

設置場所：ルイジアナ州ウエストレイク市  
パイピング供給先：Lotte Chemical Louisiana LLC  
新ASU稼働開始時期：2018年



オンサイト供給で長期的な収益基盤を築くと共に、低コストのアルゴンを成長市場で拡販

### 3-5. 米国③：炭酸ガス事業の拡大

グローバル化

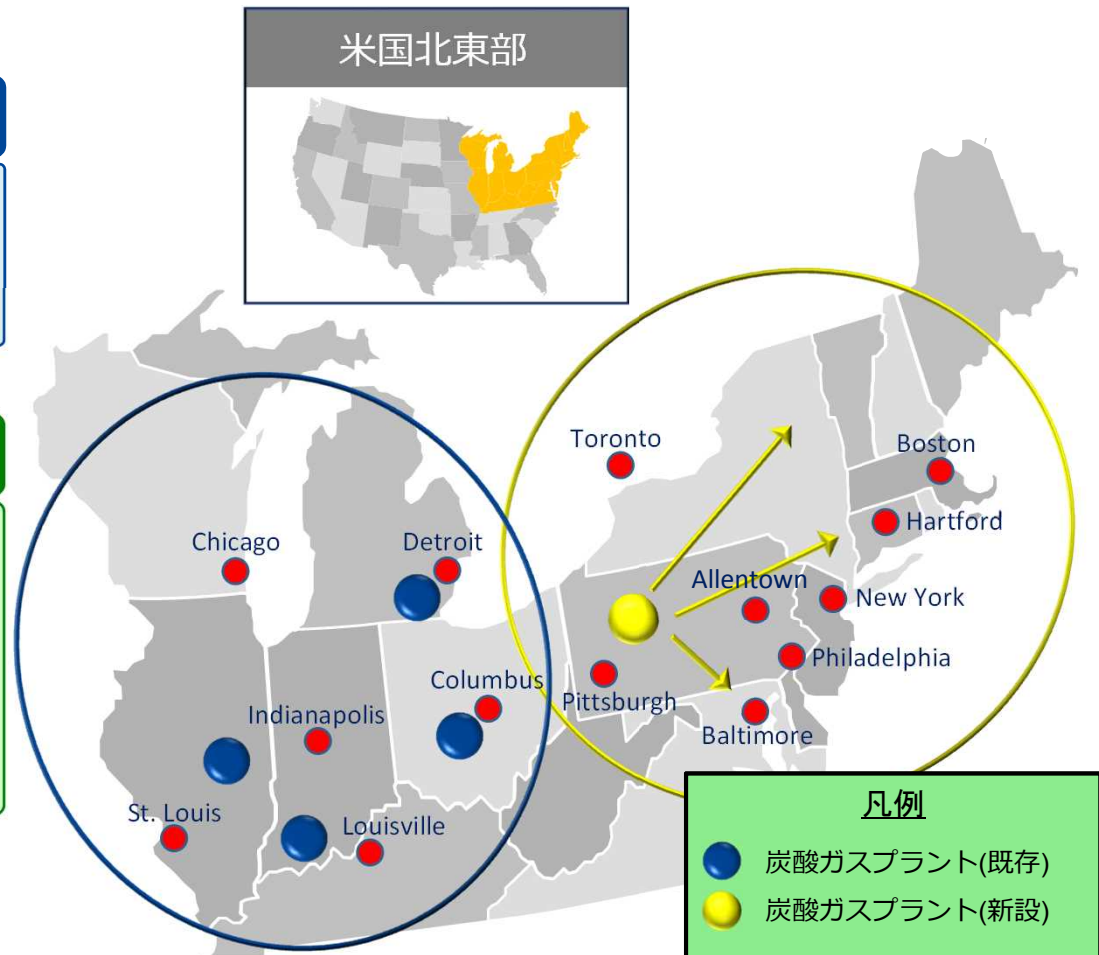
#### ● ペンシルベニア州にて炭酸ガス製造プラントを新設

##### 新プラント概要

設置場所：ペンシルベニア州クリアフィールド市  
完成時期：2017年

##### 投資の狙い

- ◆ 北東部における液化炭酸ガス・ドライアイスの安定供給体制確立
- ◆ 供給エリアの見直しによる物流コスト削減
- ◆ 既存製造工場の販売余力を確保し、中西部に拡販



買収したプラントと新設プラントを活用し、中長期的に炭酸ガス事業の拡大を図る



## 3-5. アジア・オセアニア成長戦略

グローバル化

M&A

### 地域統括会社を活用したグループ力強化



・シンガポール、中国に地域統括会社を設立し、各エリア内・グループ間の連携を強化

◆ 2017年3月 中国地域統括会社への資本移管完了（予定）

### 既進出地域での事業強化



・既に進出している地域で空気分離装置の設置やM&Aの実施により、事業基盤を強化

◆ 2016年10月 Taiyo Gases Co., Ltd.を買収（タイ）



### 事業エリアの拡大



・事業会社の設立やM&Aにより、未進出地域へ進出

◆ 2016年11月 事業会社を設立（予定）（ミャンマー）



### グローバル顧客への対応力強化



・台湾・中国・韓国にてエレクトロニクスガスの拡販に注力  
・エレクトロニクス顧客のグローバル化に機動的に対応



## 3-5. アジア・オセアニア：ミャンマーへの進出

グローバルイノベーション

### ● ミャンマーのティラワ工業団地内に事業会社を設立

#### 会社概要

社名：Taiyo Nippon Sanso Myanmar Corporation  
進出先：ティラワ工業団地  
株主：Taiyo Nippon Sanso Holdings Singapore 100%  
資本金：11,296千USD相当のミャンマーチャット  
事業内容 ・産業ガスの製造・販売  
          ・機器・配管工事等のエンジニアリング・施工  
主要設備：本社社屋、空気分離装置、充填所、配送設備 等

#### 事業戦略

- ◆ グローバル水準のサービス（品質・安全）を提供
- ◆ 日系企業（建築、金属加工、輸送機器関連等）への販売
- ◆ 現地有力ディーラーとの販売契約による販路の確保
- ◆ 他社に先駆けて、ミャンマーでバルクガスビジネスを確立

#### ミャンマーの基礎情報

GDP：5兆円  
GDP成長率：7.03%（2015年実績）  
産業ガス市場：20億円（ヤンゴン市近郊）



今後の急成長を見込み、先行者利益を享受すべくミャンマーに進出



## 注意事項

- 本資料は、証券取引上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本説明会および本資料には将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しが記述されておりますが、これらは現時点で入手可能な情報により当社が判断、想定したものであり、実際の業績は様々なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、為替レート、税制や諸制度等がありますが、これらに限られません。）を含んでおります。
- このため、現時点での見込みとは異なる可能性がございますことをご承知おきいただき、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。

